



第25回日本肘関節学会学術集会
ランチオンセミナー 2

肘関節周辺の 先天異常とその治療

日時

2013年 **2**月**9**日(土)
12:50~13:50

会場

都市センターホテル
第2会場 6階601
第3会場 6階606(中継)

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1
TEL 03(3265)8211 / FAX 03(3262)1705

座長

松下 隆 先生

帝京大学医学部整形外科学講座 主任教授

演者

高山 真一郎 先生

国立成育医療研究センター
臓器・運動器病態外科部 部長

【認定単位】

日本整形外科学会専門医資格継続単位 1単位
3. 小児整形外科疾患(先天異常、骨系統疾患を含む。ただし外傷を除く)
9. 肩甲帯・肩・肘関節疾患
日本手外科学会認定単位 1単位

共催 第25回 日本肘関節学会学術集会
三豆製薬株式会社

肘関節周辺の 先天異常とその治療

演者 国立成育医療研究センター 臓器・運動器病態外科部 部長

高山 真一郎 先生



肘関節周辺の先天異常は、外観上目立ちにくいいため乳児期には気づかれないことが多く、また発生頻度が少ないため、その病態や治療方針などについて十分な理解が得られていない。ADL上問題となる機能障害のため、観血的治療が必要となる症例もあるが、骨格異常が見られても、特に愁訴なく治療を要しない場合もある。これらの問題点は内反・外反などの変形、屈伸及び回内外可動域制限、動揺性などで、中には強直を呈する症例もある。全身性疾患の部分症も多く、代表的疾患としては、Nail Patella症候群における外反肘変形、Apert症候群における腕尺関節強直、AntleyBixler症候群における腕橈関節強直、Cornelia de Lange症候群における翼状肘・橈骨頭後方脱臼・滑車切痕形成障害などがある。またLarsen症候群では見肘脱臼を合併するといわれてきたが、われわれの経験では著しい内反肘変形を呈するものの、腕尺関節の適合は保たれていた。

本講演ではこれらの疾患の病態を呈示するとともに、症例数が多い先天性橈尺骨癒合症の治療を中心に解説する。われわれの施設での橈尺骨癒合症128肘の調査では、両側66%片側34%、男女比2.7:1で16%に家族歴を有した。強直肢位は、回内位64%中間位20%回外位4%不全癒合12%で、橈骨頭脱臼方向では、後方脱臼60%前方脱臼27%脱臼を伴わないもの13%であった。後方脱臼中90%が回内位強直で、前方脱臼では52%が中間位であった。2005年以後、癒合部を分離、上腕二頭筋腱を橈骨分離面に再固定、弯曲が最も強い橈骨骨幹部中央で短縮矯正骨切り、分離面に前腕背側の後骨間動脈脂肪つき筋膜弁を挿入する組み合わせで、70例に対して分離授動術を行ってきた。その成績と問題点などについて述べる。

略歴

(平成24年12月現在)

昭和53年 3月	慶應義塾大学医学部 卒業
昭和53年 5月	慶應義塾大学医学部整形外科学教室 入局
昭和62年 1月	慶應義塾大学医学部整形外科 助手
平成 1年10月	New Zealand Otago大学 (Department of Neurology) 留学
平成 3年10月	藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 整形外科 専任講師
平成 6年 4月	慶應義塾大学医学部整形外科 医長
平成10年10月	慶應義塾大学医学部整形外科 専任講師
平成15年 9月	慶應義塾大学医学部整形外科 助教授
平成15年10月	国立成育医療センター 整形外科医長 (慶應義塾大学医学部整形外科客員准教授・スポーツクリニック非常勤講師)
平成19年 4月	国立成育医療センター 第2専門診療部 部長
平成22年 4月	(病院名称変更に伴い) 独立行政法人 国立成育医療研究センター 外科系専門診療部 部長
平成23年 5月	組織改編により役職名変更 → 臓器・運動器病態外科部 部長